



やまなし

第 84 号 2013 年 12 月 4 日 (年 3 回発行)

もくじ

1p 生活行為向上マネジメントについて	9p 理事会便り
3p 活動報告 いきいき山梨ねんりんピック	11p 各種申請書変更のお知らせ
5p 活動報告 障がい者文化展	広告・編集後記
6p 施設紹介	
8p 精神科だより	

生活行為向上マネジメントについて

健康科学大学
佐藤真一

日本作業療法士協会では、2008年に「作業療法5ヵ年戦略」策定し、現在「第二次作業療法5ヵ年戦略」(2013~2017年)を推進している。その重点的スローガンとして「地域生活移行・地域生活継続支援の推進 ~作業療法5(GO!)・5(GO!)計画~」を掲げ、内容の4大項目の内のひとつの「地域包括ケアシステムにおける作業療法に関すること」のうちに「生活行為向上マネジメントの学術的位置づけと普及」を掲げている。経過としては2008年度から“国民にわかりやすい作業療法”の姿を示すべく、厚生労働省・老人保健健康増進等事業を5年間継続して受託し「作業をすることで人は健康になれる」サービスのあり方を提案してきた。その集大成として“作業”の捉え方と評価・支援技術 生活行為の自律に向けたマネジメント」という書籍を出版した。そこでは生活行為向上マネジメントの実践により、たとえば生活行為の実際を本人・家族・他職種が知ることができる、申し送り書を通し介護支援専門員等が作業療法の支援を理解できる、または居宅生活指導(訪問)の重要性を理解し作業療法士の訪問の有効性を知るなどの利点が得られるよう提示した。その結果地域包括ケアに貢献出来るツールとして確立させ、地域ケア会議への参画や地域包括支援センターへの作業療法士の配置が促進されることを期待している。またこのツールは作業療法士が使用するのみでなく、地域医療・介護に関わる多くの職種にも利用されるべく普及される事を期待して作成されている。そのため前出の書籍出版時の初版と現時点(2013年8月)では、種々の意見を取り入れフォーマットの変更があり、より使いやすくなるように改訂されている。

では具体的にいかに普及させてゆくかという実践段階では、各県士会から「推進委員」1名と「研究員」2名選出し推進と実践研究を進めている。山梨県作業療法士会からは前者に佐藤、後者の研

究員に副会長の古屋氏と事務局長の三瀬氏が就任した。推進委員の役割として、協会の推進プロジェクト担当特設委員会と各県士会の連携を図り、士会における推進事業に貢献する役割を担っている。研究員の役割は、実際にこのツールを使用し検討を行ない、協会の事例登録システムを利用して事例検討を積み重ね、ツールの精度の検証とツール自体の使用方法の改訂資料を提供するといった任務を果たそうとしている。

振り返り山梨県作業療法士会の進捗状況を記述する。県士会では昨年末に、協会推進プロジェクト担当理事の土井氏を迎え研修会を開催し約 120 名の参加を得ている。研修会に先立ち学術局企画研修部内部での研修会を済ませている。今年度はすでに学術局企画研修部による活用に向けてのグループワークを中心に 3 回の研修会が開催され、110 名の参加者を得ている。加えて 11 月 10 日に再度、土井氏を迎えての研修会を開催する。約 500 名の県士会員の半数以上が体験もしくは講演を聴講することとなり、推進委員としては他県に比して浸透始めていると自負している。

今後の県士会での取り組みを語ると、第一に全会員が何らかの体験・受講・実践が出来るように研修会を実施してゆきたい事、第二には県士会内に特設委員会として位置づけを行ない、自由度の高い実践・研修を実施する事、第三に県士会学術大会や日本作業療法学会での演題発表に結びつけたいと期待している。これらの実践により前述の“国民にわかりやすい作業療法”を定着させ、多くの患者・利用者に作業療法が還元できることを最大の目標とする。

生活行為向上マネジメント (MTDLP)
一般社団法人日本作業療法士協会



この図は生活行為向上マネジメントのシンボルマークとして日本作業療法士協会に登録商標する予定である

いきいき山梨ねんりんピック 2013 を終えて ～OTを身近に感じてもらうために～

竜王リハビリテーション病院
中村 彩

いきいき山梨ねんりんピックが9月28日に小瀬スポーツ公園で行われ今年で第21回目を迎えました。ねんりんピックは、誰もが健康でいきいきとした生活が送れるよう、高齢者をはじめ大人から子供までの県民が一堂に会し、スポーツ・趣味・ボランティア・生きがいづくり活動等による仲間作りを通じて社会参加することで、同時に老後の暮らしを支える各種の情報を得るという目的で開催されています。

ねんりんピックにはシルバーライフ情報提供コーナー、福祉保健に関する情報提供コーナー、生きがい情報コーナー、広場展示、即売コーナー、高齢総合スポーツ大会、ふれあいスポーツフェアなど様々なイベントやコーナーがあります。その中で山梨県作業療法士会は福祉保健情報コーナーにて、福祉や保健に関する各種の情報提供や作業療法士のPRを行う目的で参加しました。今年は昨年度よりも県土会員数が増え9名での参加となりました。

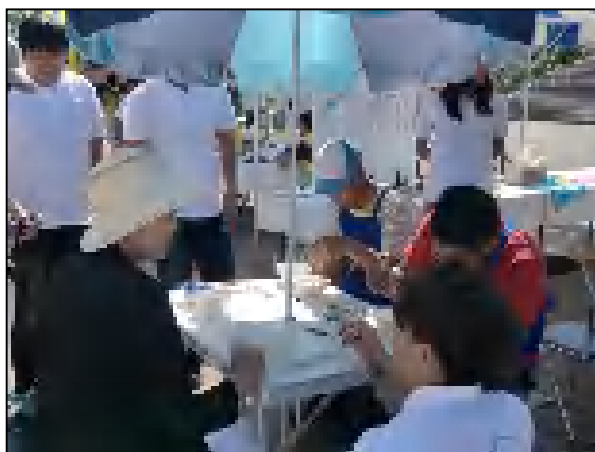


当日は晴天に恵まれ100人以上の方が作業療法(以下OT)ブースに立ち寄り下さり販わりを見せました。内容としては、昨年度同様に非利き手で箸を用いた大豆移し体験・箸の簡易自助具の作成・様々な自助具紹介を実施しました。非利き手での大豆移しは、かなりの方が苦戦していましたが、自助具を利用することでスムーズに行える方が多く、驚きを見せる方もおられました。また、今回は新たに作業活動としてビーズを使用してのストラップ作成を行いました。形は2パターンとし色は数種類用意することで枠組みのある中でも自分で選択の出来る形をとりました。女性の方に好評で、出来上がると笑顔になられる方やその場で自分の持ち物につけて帰られる方も多く見られました。更に、この活動にはどんな効果があるか、リハビリの際にはどのような事を目的としながら行っているか、実際に作業を行ってもらった中で説明したことで、OTの理解をして頂きやすかった様と感じます。また、作業を通して偶然居合わせた方とコミュニケーションが広がるなど改めて作業活動の有効性を実感しました。

昨年度よりも多くの方がOT について興味や関心を示して下さり、熱心に話を聞いて下さる方や質問をして下さる方も多く見られました。特に自助具に関しては、ユニバーサルデザインの普及と共に一般の方も興味・関心が強くなっているように感じました。来場された方の中には、毎年 OT ブースに立ち寄って下さる方や OT ブースで行った活動を地域の交流サロンで行いたいという方、箸の簡易自助具作成を実施し好評だったという方がいました。また、今後も OT ブースで実施した活動を行いたいという話も聞かれました。少しずつではありますが、一般の方への OT の認識も広がっており人伝いに OT を知る方もいることを実感しました。来年度はまた新しい自助具や活動を教えてほしいという方もおられ、来て下さる方のニーズに対応出来るようにしていきたいと思いました。

みなさま来年度はぜひ、ねんりんピックに足を運んで頂き一般の方々の OT 認識度を体感して頂けたらと思います。また、箸の簡易自助具以外で簡単に作れる自助具のアイデアも募集しています。

来ていただいた方もスタッフも笑顔溢れる OT ブースで、今年もとても楽しい一日でした。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。



障がい者文化展での活動報告

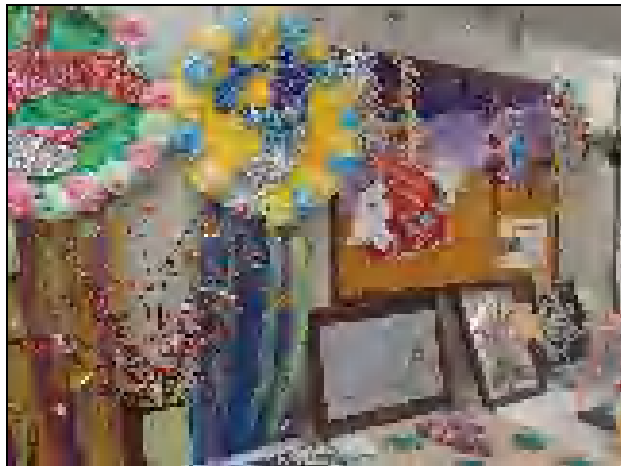
社会局事業部 障がい者文化展担当
河西 友美

障がい者文化展は今年で第16回目を迎えました。山梨県障がい者福祉協会が主催し、平成25年8月28日～9月2日までの6日間、山交百貨店の5階催事場で行われました。主旨は、障がいをもつ人達の日ごろの芸術文化活動の成果を示す作品や、趣味や技術を活かした作品、リハビリテーション活動の中で作成した作品を展示することにより、県民の障がいと障がい者福祉に対する理解を深め、障がいをもつ人が障がいを克服し、自立と社会参加への意欲を高めることを目的として行っています。

障がい者文化展にはふれあいコーナーというスペースが設けられ、視覚障がいの方による点字教室や聴覚障がいの方による手話教室があります。また、他者との交流を深める目的で、作業療法士による簡単な小物作り教室があります。社会局事業部の仕事は、作品の搬入・搬出の他に、この小物作りの内容検討を行い実施しています。その際に作業療法の仕事内容などを説明し啓発活動の場としても活用させて頂いています。このふれあいコーナーでは、今年は計11名の作業療法士の方々にご協力頂きました。

今回は、「紙パックで作る竹とんぼ」作りを行いました。ストローに、加工した紙パックを挿してできあがる簡単なものです。会場当番のスタッフの話では「オリジナルの羽を作ろうと色や模様を真剣に選ばれていました。」「この催しを毎年楽しみに来る方がいました。」などの報告がありました。また、スタッフ自身からは「初対面の方とでも気持ちが共有できる“作業”ってすごい。」「様々な作品を見る事ができたので、今後の作業療法場面に生かして行きたいです。」と感想が聞かれました。

今年は9施設から30作品が集まりました。どの作品も様々な工夫がしてあり、作った方の熱意が感じられました。みなさんもぜひ機会を作り、来年の障がい者文化展に足を運んでみてはいかがでしょうか。来年もたくさんのお品をお待ちしております。



施設紹介

回生堂病院
作業療法室 山本 憲典

病院概要

当院は昭和 30 年に郡内地方に唯一の開設許可を受け、山梨県東部都留市の郊外に開院しました。山々や川といった豊かな自然に囲まれ、また四季によって表情を変える富士山を一望できる地で、精神疾患を患われた方の早期治療・社会復帰に向け職員一同一丸となって取り組んでいます。建物の外観や内装は歴史を感じるとともに、どこか懐かしく親しみも感じます。また、敷地内に精神科デイケア（小規模）やグループホームも併設しております。

病床数は精神科一般病棟・精神療養病棟・認知症治療病棟あわせて 276 床です。診療科は精神科・心療内科があります。

作業療法について

当院では 5 名の作業療法士が在籍しています。作業療法は、入院患者様を対象に様々なプログラムを行っており、患者様ひとりひとりのニーズに合った作業活動を提供しております。活動を通じて症状の安定化、対人関係の改善、心身機能の向上、楽しみとしての体験、社会復帰へ向けての援助など多岐にわたる目的に向けてはたらきかけています。急性期から慢性期まで幅広い層の患者様を対象とする中で他職種とは違った立ち位置からその人の生活や人生に寄り添いアプローチ出来るよう、日々試行錯誤しながら取り組んでいます。



当院の手工芸室です。
机や収納などが、木製や手作りのものが多く、暖かみのある空間となっています。

園芸用の畑です。季節に応じて作物を育て、収穫し、皆で旬の野菜を味わっています。



精神科デイケアについて

回生堂病院デイケアは、地域で生活している方々が集まり、グループ活動を通して安定した生活や社会復帰をめざしております。

主な目的：生活リズムの獲得、認知機能の維持・向上、居場所や交流の場の提供、趣味の獲得、体力の向上など

活動日時：月曜日～金曜日 9：30～15：30
(土曜日・日曜日・祝日はお休みです)

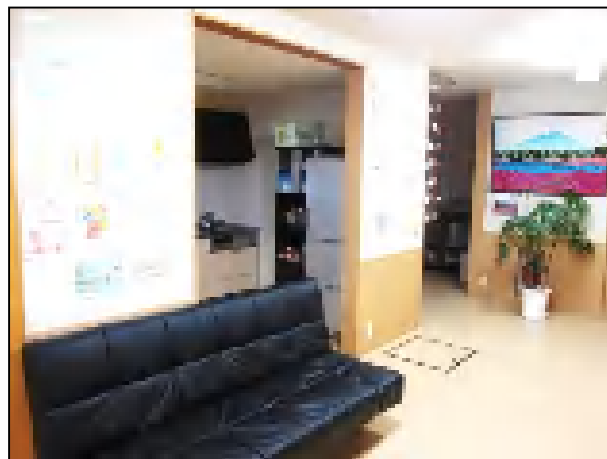
定員：30名

活動内容：スポーツ、料理、手工芸、音楽療法、パソコン、ゲーム、心理教室等
(利用者様の希望を取り入れつつ、実施しています)



気分調べやミーティング、プログラムなど、利用者様がメインで使用している部屋です。

休憩所です。壁には手工芸や書道の作品、料理プログラムで調理した献立の写真などが展示されています。



精神科だより 「伝えること」

公益財団法人 住吉偕成会 住吉病院
作業療法室 加藤 由里子

私はこの原稿依頼を頂いて、正直何を書けばいいのかわかりませんでした。ですが、せっかくこのような機会を頂いたので、患者さんと関わって感じたことを書いてみたいと思います。

現在の精神科領域の作業療法では入院医療中心から地域生活中心へという方針のもと、作業療法を提供するのが主流となっています。私が働く住吉病院でも退院促進プログラムや心理教育の中で退院のテーマを扱うことも多くあります。その成果により早期退院され、地域で生活する方も多くいます。

その一方で長期入院の方もいます。なぜ長期入院になってしまうのでしょうか。症状が安定しない方、退院先がなかなか見つからない方それぞれの理由があります。長期入院が悪いわけではありません。しかし、患者さんたちに話を聞くと退院したいと希望も聞かれます。

私は長期入院の方に退院の障壁について尋ねたところ「家族が戻ってきてはだめと言うから。」と返ってきました。その答えを聞いたとき、なんだかさびしいというのが率直な感想でした。退院の形にもいろいろあります。その中でも患者さんからは家に帰って家族と暮らしたいという希望を多く聞かれます。家族関係を調整するということはとても難しく、ご家族にも生活があり、それぞれの理由があるのだと思います。また、ご家族が一番近くで患者さんの「悪いとき」というものを体験されています。陽性症状が顕著に見られるときなど私たちが想像を絶する体験をされていると思います。また同じことの繰り返しになるのではと考えると退院が消極的になるのも分かります。私たちも同じで評価や観察をする場合、症状に目がいきがちです。

しかし、患者さんはずっと「悪い時」が続くわけではありません。病棟では落ち着かない患者さんが作業療法場面では集中して塗り絵や編み物をしたり、臥床傾向の患者さんが料理活動には意欲的に参加したりと新しい一面が見られます。新しい一面を引き出すというのは正直難しい部分もありますが、その一面を引き出すのはOTのとても大切な役割だと思います。目に見えている部分を評価するだけでなく、見方を変えて患者さんと関わることで新しい一面が見えてくると考えます。

引き出すだけでなくそれを伝えるのも重要な役割だと思います。作業療法場面の様子を他職種に伝えることで、更に充実したサポートを患者さんに提供できます。また、ご家族に伝えることで前向きに退院について考えてくれたり、それだけでなく今後の生活の支援も変わるのではないのでしょうか。ご家族の支援の有無は患者さんの回復に大きく関わると思います。

私はこれから患者さんといろんな場面で関わり、いろいろな一面を引き出し、患者さんに関わる方に一人でも多くたくさん伝えていきたいと思っています。伝えることで何か始まればいいなと期待しています。

最後に住吉病院ではブログにて日々の活動を伝えています。もしよろしかったら一度ご覧下さい。
HP : <http://otsumiyoshi.blog.fc2.com/>

一般社団法人 山梨県作業療法士会
2013年度 第3回 理事会議事録

日 時：平成 25 年 6 月 10 日(月)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、広田、古屋、三瀬、長坂、松田、青木、有泉、工藤、関谷、磯野、白木原、川崎；13名

1. 会長(山本)

1) 会長、副会長、事務局、HP 管理部に WiFi 機能のある通信用品を設置し連絡用として使用していく。

2. 事務局(三瀬)

<管理部>

1) 会員数 487 名(平成 25 年 6 月 10 日現在)

3. 学術局(佐藤・青木・有泉・白木原)

<学術大会運営部>

1) 第 6 回学術大会演題募集を 5 月 29 日(水)に締切り。

4. 常設委員会(関谷)

<訪問リハビリテーション委員会>

1) 平成 25 年 6 月 5 日(水)第 1 回山梨県訪問リハビリテーション協議会会議に長坂理事が出席。

5. 臨時委員会(磯野)

<災害対策準備委員会>

1) 3 士会合同による災害対策委員会委員として一般社団法人山梨県理学療法士会の三井真一氏(山梨県立中央病院)、山梨県言語聴覚士の赤池洋氏(山梨大学医学部附属病院)が決定した。

一般社団法人 山梨県作業療法士会
2013年度 第4回 理事会議事録

日 時：平成 25 年 7 月 17 日(火)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、広田、古屋、三瀬、佐藤、長坂、松田、青木、関谷、白木原、工藤、有泉；12名

1. 副会長(広田・古屋)

1) 平成 25 年 7 月 26 日(金)健康長寿やまなしプラン計画策定検討委員会に会長代理で古屋副会長が出席。

2) 平成 25 年 6 月 28・29 日(金・土)都道府県作業療法士会連絡協議会総会に広田副会長が出席。

2. 事務局(三瀬)

1) 平成 25 年 7 月 3 日(水)PT・OT・ST 士会合同意見交換会に山本会長、広田副会長、三瀬事務局長が出席。

2) 生活行為向上マネジメント全国推進会議について、山梨県作業療法士会から推進者として佐藤理事、研究員として古屋副会長、三瀬事務局長を選出。

<管理部>

1) 会員数 507 名(平成 25 年 7 月 17 日現在)

3. 学術局(佐藤・青木・有泉・白木原)

<生涯教育部>

1) 現職者共通研修

日 時：平成 25 年 6 月 20 日(木)

会 場：大木記念ホール

テーマ：作業療法生涯教育概論

講 師：山本伸一(山梨リハビリテーション病院)

4. 常設委員会(関谷)

<訪問リハビリテーション委員会>

1) 平成 25 年 6 月 17 日(月)第 2 回山梨県訪問リハビリテーション協議会会議へ長坂理事が出席。

<特別支援教育委員会>

1) 委員を 4 グループに編成し、教員への講演を実施、地域障がい児への支援(相談会等)を実施、支援学校で働く作業療法士への支援、ともしび福祉作業所への支援、を行っていく。

一般社団法人 山梨県作業療法士会
2013年度 第5回 理事会議事録

日 時：平成 25 年 9 月 4 日(水)

会 場：甲府城南病院 作業療法室

出席者：山本、広田、古屋、三瀬、佐藤、長坂、松田、青木、有泉、関谷、磯野、白木原、川崎 13名

1. 会長(山本)

1) 関連団体に山梨県訪問リハビリテーション協議会についての挨拶回りを随時行った。

2) 山梨県立介護実習普及センター介護機器普及事業運営協議会に山本会長が出席。

2. 副会長(広田・古屋)

1) 平成 25 年 7 月 19 日(金)山梨県リハビリテーション病院施設協議会部長会議に広田副会長が出席。

2) 一般社団法人山梨県理学療法士会事務所開所式に広田副会長、古屋副会長、三瀬事務局長が出席。

3) 平成 25 年 7 月 27・28 日(土・日) 第 11 回協会・土会合同役職者研修会に古屋副会長、佐藤理事が出席。

4) 生活行為向上マネジメント全国推進会議に佐藤理事が出席。生活行為向上マネジメント質の評価方法の開発と質の向上のあり方検討事業研究説明会に古屋副会長、三瀬事務局長が出席。

3. 事務局(三瀬)

1) 日本作業療法士協会、大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(旧東日本大再学リハビリテーション支援関連 10 団体)主催「災害リハビリテーション・コーディネーター研修会」に磯野理事を推薦。

2) 平成 25 年 9 月 12 日(木) 中北地域リハビリテーション連絡会に三瀬事務局長が出席。

<管理部>

1) 会員数 495 名 (平成 25 年 9 月 4 日現在)

4. 広報局(工藤)

<企画編集部>

1) 広報ニュース 83 号を発送した。

5. 社会局(松田)

<事業部>

1) 平成 25 年 8 月 28 日(水)~9 月 2 日(月) 山梨県障がい者文化展が山交百貨店にて開催され委員が参加した。

6. 学術局(佐藤・青木・有泉・白木原)

<企画研修部>

1) 第 3 回企画研修部研修会

日 時: 平成 25 年 8 月 9 日(金)

会 場: 大木記念ホール

テーマ: 生活行為向上マネジメント~生活行為向上マネジメントツールの理解と活用に向けて~

講 師: 古屋豊美(山梨厚生病院)

参加者: 40 名

日 時: 平成 25 年 8 月 22 日(木)

会 場: 山梨県青少年センター

講 師: 佐藤真一(健康科学大学)

参加者: 40 名

日 時: 平成 25 年 9 月 3 日(火)

会 場: 健康科学大学

講 師: 佐藤真一(健康科学大学)

参加者: 40 名

<学術大会運営部>

1) 平成 25 年 8 月 31 日(土) 一般演題抄録締め切り。

<生涯教育部>

1) 現職者共通研修

日 時: 平成 25 年 7 月 28 日(日)

会 場: 健康科学大学

テーマ: 作業療法における協業・後輩育成

講 師: 中村雄(健康科学大学)

参加者: 16 名

日 時: 平成 25 年 7 月 28 日(日)

会 場: 健康科学大学

テーマ: 職業倫理

講 師: 関谷宏美(甲州リハビリテーション病院)

参加者: 14 名

日 時: 平成 25 年 8 月 22 日(木)

会 場: クアハウス石和

テーマ: 保健・医療・福祉と地域支援

講 師: 石井孝弘(帝京科学大学)

参加者: 31 名

7. 常設委員会(関谷)

<福祉用具委員会>

1) 福祉用具委員会主催研修会

日 時: 平成 25 年 9 月 1 日(日)

会 場: 大木記念ホール

テーマ: 住環境のポイント1~「玄関」「階段」「浴室」「トイレ」場所ごとに体験しながら行きます~

講 師: 船谷俊彰氏(パナソニックエイジフリー ショップス株式会社所属)

参加者: 66 名

<特別支援教育委員会>

1) 平成 25 年 7 月 28 日(日)に第 2 回地域療育相談会に参加。

2) 平成 25 年 8 月 7 日(水)講演会(講師: 石井孝弘(帝京科学大学))に参加。

8. 臨時委員会(磯野)

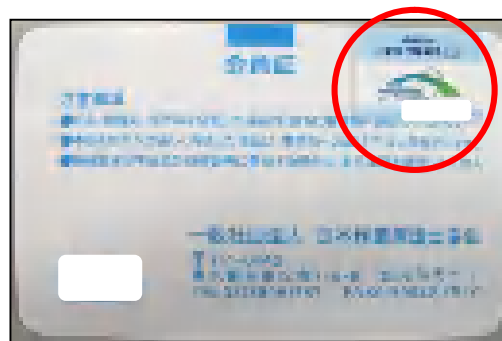
<地域リハビリテーション委員会>

1) 平成 25 年 9 月 9 日(月)リーダー会議を開催。

一般社団法人 山梨県作業療法士会 会員シールの取り扱いについて

入会申請書及び会費の納入が確認された正会員に「会員シール」を発行しております。「会員シール」は、日本作業療法士協会会員証裏面に貼付（下記参照）し、士会主催の学会および研修会等に参加する場合は、必ず提示して下さい。

なお、「会員シール」の再発行は行っておりませんので、本証を紛失されないようご注意ください。



一般社団法人 山梨県作業療法士会会員手続きについて

入会について（会員の構成）

1. 正会員 一般社団法人日本作業療法士協会の正会員である者で、山梨県内に常勤または在住し、当法人の事業に賛同して入会した個人（作業療法士対象）
2. 賛助会員 当法人の目的に賛同し、事業を賛助するために入会した個人または団体
3. 名誉会員 当法人の事業に顕著な功労のあったもの又は学識経験者

いずれも理事会での承認が必要となります。特に賛助会員に関しては、賛助内容を明確に提出して頂き、理事会にて検討させていただきます。詳細につきましては、一般社団法人山梨県作業療法士会定款「第二章 会員」をご覧ください。

会員手続きについて

各種申請書（入会申請書／登録変更届／休会・復会届／退会届）を当士会ホームページからダウンロードして頂き、事務局 管理部まで郵送またはFAXにてご連絡ください。特に、変更届については、変更があり次第ご連絡頂きますようお願いいたします。

連絡・送付先

一般社団法人 山梨県作業療法士会 事務局 管理部
〒400-0831 山梨県甲府市上町753-1
甲府城南病院 リハビリテーション部 作業療法科内
FAX：055-241-8660（代）
TEL：055-241-5811（代）

理事長の笑顔・福祉・心理の専門資格を目指そう



健康科学人学 10th
HEALTH SCIENCE UNIVERSITY 10th ANNIVERSARY

福祉・心理・作業療法士・臨床心理士を目指す

<http://www.keio-dai.ac.jp>

TEL 055-55-0352

SAKAIYOKO

標準電力計 モービー



標準電力計のスタンダード
シンプルなのに高精度、更に安心価格で提供！
交流電圧計・電圧計・電流計・電力計
100V/200V対応、電圧電流の両方計測可能。



200V/200mA/40A



100V/200mA/20A

電力計等4種類の標準電力計
標準電力計・電圧計・電流計・電力計
100V/200V対応
www.sakaiyoko.com

編集後記

先日、母校に行きました。が、校舎が新しくなっているの懐かしさも感じませんでした……。切ないです。(い)

先日、大人の食事マナー教室に行ってきました。今までマナー違反が多かったことに気づき、恥ずかしくなりました。おススメです。(し)

最近、運動をしていません。その割には、体重はキープしています。これからも大丈夫かな～(米)

最近、友達が次々と結婚し始めました。出費がハンパないです。(今)

人生初の胃カメラ経験してきました。診断は慢性胃炎だそうです……。(つ)

発行人：山本 伸一

編集人：工藤 亮・飯野 知一・角田 幸一・内藤 和也・藤原 浩宣・米山 敦・今泉 隼・精進 智規・土屋唯・梶原由加里・金田 勇一

発行所：一般社団法人 山梨県作業療法士会 広報局 企画編集部

しらゆり訪問看護ステーション 〒400-0114 山梨県甲斐市万才287 TEL 055-276-1155

FAX 055-279-1262

印刷所：(株)島田プロセス 〒409-3867 山梨県中巨摩郡清水新居1534 TEL 055-233-8829